

## 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	農地整備係	事務事業No.	16213	
事務事業名	農業用施設管理事業					
会計	一般会計	款	6	項	2	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画掲載頁	79
	施策目標	自然と共生した環境の創造				
	施策項目	自然環境の保全と共生				
個別計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内に整備された農地においては、ほ場整備以降30年以上が経過しており、農業施設、用排水路施設や暗渠排水機能など老朽化が進み、維持管理に苦慮している。水路やほ場などの改修、整備を行い、農業の再編を図る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>経年劣化等により老朽化する農業用施設等を、県営事業や交付金事業等を活用し水路等の改修やほ場整備を行い、安定した農業経営の実現と防災面での強化を図る。</li> </ul>		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業用施設修繕工事 7箇所</li> <li>緊急修繕工事 23箇所</li> <li>県営ため池耐震化事業（居谷里1号・2号ため池） 負担金事業（全体事業費2億円 負担割合国55%、県34%、市11%）</li> <li>県営二重地区ほ場整備事業・負担金事業（全体事業費4億円 負担割合：国55%、県27.5%、市10%、地元7.5%）</li> </ul>					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		15,019,120	円	56,274,141	円	49,559,399	円
財源内訳	特定財源			円	22,500,000	円	22,250,000	円
	一般財源		15,019,120	円	33,774,141	円	27,309,399	円

  

活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	緊急修繕工事	箇所	16	19	23	20	115.0%	20
②	農業用施設整備延長	箇所	7	3	7	5	140.0%	5
③								

  

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	農業用施設整備延長	m	250	40	30	100	30.0%	100
	美麻二重地区ほ場整備進捗率（事業費）	%	5	32	57	58	98.3%	75
	居谷里1号2号ため池耐震化事業（事業費）	%	-	-	10	10	100.0%	38

2. 数値で表せない効果

（指標①）自治会、地元農家、土地改良区より、降雨等の自然災害の影響や経年における施設老朽化を原因とする農業施設の改修について要望が多いため、県営事業や市単独事業を進めて、安定した農業経営の実現に取り組んでいる。

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3	18			

評価理由

- 地元からの要望が高い。
- 農村地域の過疎化・高齢化が進む中で、農地再編は必要不可欠である。

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>農産物の安定生産に必要な用水を供給する農業水利施設の多くが、耐用年数を超過する時期を迎えており、更新整備や長寿命化が急務となっている。また、農村地域の過疎化・高齢化が進む中で、多様な担い手による農地利用を促進するためにも、長野県や土地改良区等と役割分担を図り、効率的に更新整備や長寿命化の計画を進める必要がある。</li> </ul>
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業用水利施設の規模や造成主体に応じた国、県、市、土地改良区の役割分担により、コスト縮減を図りながら効率的な長寿命化を進める。</li> </ul>

# 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	建設係	事務事業No.	18221	
事務事業名	道路維持管理事業					
会計	一般会計	款	8	項	2	
目	2		目	2		
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	85
施策目標	暮らしやすい都市基盤の整備					
施策項目	安全で快適な道路整備・維持管理					
個別計画	「舗装長寿命化修繕計画」「橋梁長寿命化修繕計画」「トンネル等長寿命化修繕計画」					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	市所管の幹線道路及び生活道路（総延長867km）における舗装及び道路施設（橋梁、トンネル、側溝等）			道路利用者の安全で快適な移動の確保と道路環境の保全		
主な業務内容	幹線道路については、「舗装長寿命化修繕計画」に基づき、計画的に修繕工事を実施する。また、比較的交通量の少ない生活道路については、日常的点検や地域要望を踏まえ、道路施設（側溝、標識等）を含め緊急度に応じ修繕を実施する。橋梁やトンネル等の重要構造物については、「橋梁・トンネル等長寿命化修繕計画」に基づき、計画的な予防修繕を実施するとともに、5年サイクルで全箇所点検（計340箇所）を実施し、定期的に計画の見直しを行う。					

## 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		186,612,748 円		167,659,370 円		187,971,575 円		
	財源内訳	特定財源	33,015,000 円		82,604,307 円		68,269,808 円		
一般財源		153,597,748 円		85,055,063 円		119,701,767 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	維持工事（舗装・側溝等）	路線	13	12	22	15	146.7%	15
	②	長寿命化修繕工事（橋梁等）	箇所	1	1	1	1	100.0%	1
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	維持工事（舗装・側溝等）	km	1.5	1.4	1.4	2.0	70.0%	2.0
	②	長寿命化修繕工事（橋梁等）	箇所	1	1	1	1	100.0%	1
	③								
	2. 数値で表せない効果		(指標①、②) 道路利用者の安全性及び快適性の向上						

## 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	点数	3	3	3	2	2	3					
評価理由	令和元年に提出された自治会等からの道路及び水路に係る陳情の内訳をみると、陳情総数406箇所のうち道路維持管理事業関連は125箇所であり高い市民ニーズが認められる。事業成果としては、平成30年度より表層のみの打ち換えが新たに対象となった「公共施設等適正管理事業債」を積極的に活用し、舗装修繕事業を推進したほか、橋梁の長寿命化修繕工事についても交付金を活用し、計画的に予防補修工事を実施した。											

## 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	道路舗装の修繕については、前記事業債のほか社会資本整備総合交付金を活用しているが、近年、要望額に対する内示率が著しく低下（令和2年度→5.0%）しており、市の財政負担が増している。 橋梁・トンネル等の修繕については、道路法の改正を踏まえ、H30～R4年度で49箇所の予防補修工事を計画しているが、概算事業費総額は231.8百万円にのぼり、交付金等を活用しても市の財政負担が大きい。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）	舗装修繕は、今年度に引き続き「公共施設等適正管理事業債」を積極的に活用し、舗装修繕事業の推進を図る。 橋梁・トンネル等の修繕は、コストや外観の調整を図りつつ最適な補修工法を選定するとともに、事業費の平準化を図る。

## 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	建設係	事務事業No.	18222		
事務事業名	交通安全施設整備事業						
会計	一般会計	款	8	項	2		
目	2		目	2			
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	85	頁
	施策目標	暮らしやすい都市基盤の整備					
	施策項目	安全で快適な道路整備・維持管理					
個別計画	「大田市通学路交通安全プログラム」					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	市所管の幹線道路及び生活道路における歩行者空間			安心・安全な歩行者空間の整備			
主な業務内容	生活道路については、日常点検や地域要望を踏まえ、危険度及び緊急度に応じ計画的に歩道の新設や交通安全施設（ガードポスト、外側線等）の整備を実施する。通学路については、大田市通学路安全推進会議（教育委員会、市内小学校、警察、道路管理者で構成）による合同点検及び交通安全プログラムの見直し（年1回）を踏まえ、計画的に歩道やグリーンベルトの新設及び交通安全施設の整備を実施する。また、保育所等のお散歩ルートについても保育所、警察、道路管理者で合同点検を行い、危険箇所及び対応策を取りまとめ、横断歩道待場の拡幅やガードポスト等の交通安全施設の整備を実施する。						

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）			79,671,950	円	71,387,054	円	98,551,245
財源内訳	特定財源		22,736,000	円	31,449,000	円	28,380,000	円
	一般財源		56,935,950	円	39,938,054	円	70,171,245	円

  

活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	区画線等路面標示の更新	km	18.8	13.3	8.4	15.0	56.0%	10.0
②	歩道新設整備	路線	2	3	1	2	50.0%	2
③	グリーンベルト整備	路線	2		3	2	150.0%	3

  

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	区画線等路面標示の更新	km	18.8	13.3	8.4	15.0	56.0%	10.0
	歩道及び簡易歩道整備率	%	35.0	35.7	46.4			48.0
	2. 数値で表せない効果		（指標①）陳情箇所での地域住民との立会いや、学校・保育所等関係者との合同点検を通じ、歩行者の注意すべき点を助言することで交通安全の向上が図られている。					

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	高い	一部重複	高い			
点数	3	3	3	2	3	3		18		
評価理由	通学路や保育所等のお散歩ルートでの交通事故が国内で頻発しており、全国的に安心・安全な歩行空間の整備が求められている。また、令和元年に提出された自治会等からの道路及び水路に係る陳情の内訳をみると、陳情総数406箇所のうち交通安全施設整備事業関連は83箇所である。一定の市民ニーズが認められる。事業成果としては、区画線等の更新については、冬期間の少雪により剥離等が少なかったことから施工延長を縮小したが、合同点検等を踏まえ、歩道やグリーンベルトの新設事業を推進したほか、保育所等のお散歩ルートの安全対策を新たに追加し事業を推進した。									

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
歩道の新設事業については、社会資本整備総合交付金を活用しているが、近年、要望額に対する内示率が低下（H30・69.9%→R1・71.08%→R2・58.8%）しており、市の財政負担が増している。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
ハード整備と並行し、大田市通学路安全推進会議等を通じた学校・保育所・PTA・地域住民等が連携した見守り活動（登下校の街頭指導、道路パトロールボランティア）の拡充や、登下校やお散歩時の交通安全教育の推進等、ソフト施策の充実を図る。

# 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	建設係	事務事業No.	18232	
事務事業名	道路新設改良事業					
会計	一般会計	款	8	項	2	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	85
	施策目標	暮らしやすい都市基盤の整備				
	施策項目	安全で快適な道路整備・維持管理				
個別計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	市所管の幹線道路及び生活道路			道路利用者の安全で快適な移動の確保と円滑な道路ネットワークの構築		
主な業務内容	日常点検及び地域要望を踏まえ、整備効果や緊急度を精査し、計画的に道路改良事業を実施する。					

## 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		120,021,350	円	88,507,604	円	219,537,669	円	
財源内訳	特定財源		23,136,000	円	52,115,000	円	114,986,000	円	
	一般財源		96,885,350	円	36,392,604	円	104,551,669	円	
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	道路新設改良工事	箇所	10	3	6	7	85.7%	6
	②								
成果指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	道路新設改良工事	km	0.7	0.2	1.5	0.7	214.3%	0.7
	②								
2. 数値で表せない効果 （指標①）幹線道路及び生活道路の安全性及び利便性の向上									

## 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	一部重複	普通	適正である			
点数	3	3	3	2	2	3		18		
評価理由	令和元年度においては、当該事業費の約45%を大町鹿島線（二ツ屋地区）に充当したが、当該路線は市街地と市北西に立地する観光拠点及び平成30年に本格稼働した一般廃棄物処理施設を結ぶ重要な路線であり、大型車の交通量の増加が見込まれることから、早急に集落の通過交通に対する安全確保を図るため、事業を推進したものである。									

## 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b> 道路新設改良事業については、工事費用のほか用地取得、物件移転補償費等が必要となることから、社会資本整備総合交付金を活用しても市の財政負担が大きい。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b> 改良候補路線の交通量等を精査し、部分的な改良（待避所の設置、交差点部の視距改良等）を推進することで、低コストで迅速に地域要望に対応する。

## 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	維持係	事務事業No.	18241	
事務事業名	雪害対策事業					
計	一般会計	款	8	項	2	
				目	4	
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	85
	施策目標	暮らしやすい都市基盤の整備				
	施策項目	安全で快適な道路整備・維持管理				
個別計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	市道（幹線道路、歩道を含む生活道路）の除排雪及び凍結防止剤散布			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除排雪の充実による安全かつ安心な交通確保</li> <li>・ 除雪機械の計画的な整備、更新及び貸与による除雪業者の経営負担を軽減</li> <li>・ 凍結防止剤散布によるスリップ事故の防止</li> </ul>		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市道867kmの内除雪延長425.8km（大町地区325.6km 美麻地区48.9km 八坂地区51.3km）</li> <li>・ 市道・国道の歩道除雪延長45.0km（大町地区4.1.3km 美麻地区3.7km）</li> <li>・ 除雪委託業者73者（業者47社 自治会26者）</li> <li>・ 業者等への貸与する除雪機械の購入</li> </ul>					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度			
	総事業費（決算額）	213,672,004 円		216,310,549 円		168,107,600 円			
	財源内訳	特定財源	23,881,000 円	26,568,000 円	37,614,000 円	一般財源	189,791,004 円	189,742,549 円	130,493,600 円
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	除雪延長	km	475.3	471.4	470.8	470.0	100.2%	469.0
	②	除雪機械購入台数	台	2	4	1	1	100.0%	2
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	除雪委託者	者	74	72	73	72	101.4%	73
	②	除雪機械総数	台	57	61	62	62	100.0%	63
	③								
2. 数値で表せない効果		（指標①）気候の変化により降雪量が減少し、除雪費が軽減されている。除雪機械の購入について交付金の追加要望により当初より多くの特定財源を確保することができた。							

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	17
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である					
点数	3	3	3	3	2	3						
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬期道路交通確保は除排雪や路面の凍結防止を行うことで、市民生活における交通が円滑に行われる。</li> <li>・ 道路除雪延長は地域の生活、経済活用の維持に留意しつつ、代替ルートがある場合等においては、計画的に冬期の道路サービス水準を下げ、場合によっては除雪を行わず冬期に通行不能とする区間を設けることも考えられる。</li> </ul>											

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業員の高齢化が進む中で、技術を持ったオペレーターが減少し、人材の確保が難しい。</li> <li>・ 除雪機械を保有することに対する経営リスクが大きく、除雪機械を手放す業者が多くなっている。</li> </ul>
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積雪地域における冬期間の安全かつ安心な道路交通の確保は、通学通勤、救急医療、消防防災等の住民生活の安全確保、さらには定住促進や産業経済の円滑な活動の面からも、極めて重要である。一方、除雪を委託される建設業者の経営状況は厳しさを増しており、継続的な除雪体制を維持するためには、除雪計画に沿いより低コストで事業効果を上げるICTを活用した効率的な除雪と情報提供などの除雪体制を検討し、オペレーター等の作業及び事務量の低減を図る。また、除雪機械保有に対する経営リスクについては、大町市での除雪機械の整備や、長野県及び他市の除雪機械準備費を考慮した費用の積み上げを建設業組合等と検討していく。</li> </ul>

# 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	農地整備係	事務事業No.	18311	
事務事業名	水路維持改良事業					
会計	一般会計	款	8	項	3	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第3節 だれもが健康で安心して暮らせるまち			前期計画登載頁	77
	施策目標	市民生活の安全の確保				
	施策項目	災害に強いまちづくりの推進				
個別計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検や地域要望に基づき、老朽化した水路等の更新や改修を行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化した用水路に起因する漏水、溢水被害を防止し、宅地や農地を守る。</li> </ul>		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が管理する河川および市街地における水路の改修・修繕工事を実施。</li> <li>水路改良工事 20箇所</li> <li>水路修繕工事 30箇所</li> </ul>					

## 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		32,762,950 円		23,484,007 円		41,118,619 円		
	財源内訳	特定財源	円		13,000,000 円		9,000,000 円		
一般財源		32,762,950 円		10,484,007 円		32,118,619 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	改良工事	箇所	5	5	20	8	250.0%	8
	②	修繕工事	箇所	31	24	30	29	103.4%	29
③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	改良延長	km	0.22	0.18	0.42	0.50	84.0%	0.50
	②								
③									
2. 数値で表せない効果（指標①）									

## 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	高い	重複なし	普通			
	点数	3	3	3	3	2	3			17
									継続	18
評価理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>水路の老朽化に伴う漏水、溢水被害については、市民からの要望も多く、また、水路等のゴミつまりなど維持管理に関する問い合わせも年々増加傾向にある。</li> </ul>								

## 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検や管理は地元住民にお願いをしているが、年々、用水路等の継続的な管理が困難となり、ゴミ上げや畦草の繁茂による溢水被害の発生が顕著となっている。</li> </ul>
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>農水省の補助金事業（多面的交付金事業など）を活用し、土地改良区や地元農家との連携強化を図りながら適正な維持管理を行う。</li> </ul>

## 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	農地整備係	事務事業No.	18313		
事務事業名	雨水対策整備受託事業						
会計	一般会計	款	8	項	3		
		目	1				
総合計画	まちづくりのテーマ	第3節 だれもが健康で安心して暮らせるまち			前期計画掲載頁	77	頁
	施策目標	市民生活の安全の確保					
	施策項目	災害に強いまちづくりの推進					
個別計画	大田市雨水整備基本計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地において、近年、頻発する集中豪雨等に起因する冠水被害を防止するため、市街地に流入する用水の抑制を目的としたバイパス管の設置をする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地へ流入する水の抑制対策をすることにより、市民の生命や財産を守ると共に道路等の都市機能の保全を図る。</li> </ul>			
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水バイパス管渠工事（Φ1100mm、全延長 L=620.2m） 令和元年度実績 L=144.6m（管渠工事は全線完了）</li> </ul>						

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		52,868,657	円	51,514,780	円	78,455,820	円	
	財源内訳	特定財源	52,868,657	円	51,514,780	円	78,455,820	円	
一般財源			円		円		円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	基本計画策定	式	H28完了	H28完了	H28完了	-	-	-
	②	調査・実施設計	式	-	完了	-	-	-	-
③	管路工事	工区	2	1	1	1	100.0%	1	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	管路工事（累計）	m	362	471	620	620	100.0%	完了
	②								
	③								
2. 数値で表せない効果（指標①）									

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計	
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化	継続				18
	評価	高い	高い	高い	重複なし	高い					
点数	3	3	3	3	3	3					
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年3月でバイパス管工事が全線完了し、中心市街地の被害抑止対策にむけた準備が整った。</li> <li>今後、建設課としては、土地改良区と連携をした人的な水利調整を踏まえ一層の被害抑制に努めたい。</li> <li>本年度、舗装本復旧事業については、すべて完了することはできないが、今後は建設系の舗装復旧受託事業の中で継続して取り組みたい。</li> </ul>										

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の雨水管渠整備については、公共下水道の雨水整備計画に位置づけられており、下水道課において検討をし対応を進める必要がある。</li> <li>具体的な進め方については、下水道施設の健全度に関する点検・調査結果に基づき「長寿命化対策」に係る計画を策定し、当該計画に基づき長寿命化を含めた計画的な改築を行う下水道長寿命化支援制度（平成20年度創設事業）を活用して、適切な時期に下水道施設（管渠施設）の延命化を目的とした改築・更新を実施することとなる。</li> </ul>	
改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）	

# 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	計画係	事務事業No.	18413	
事務事業名	おたんじょ桜事業					
計	一般会計	款	8	項	4	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	83
	施策目標	暮らしやすい都市基盤の整備				
	施策項目	魅力あるまちの形成に向けた都市計画の推進				
個別計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民を挙げて次代を担う児童の出生を祝い、これを記念して桜の植樹を進める。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>さくらの里づくりを目指し、桜の名所の形成を図り児童の健全育成と健康で文化的な都市環境の整備を図る。</li> </ul>		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記念植樹会(毎年10月下旬～11月上旬 実行委員会主催)</li> <li>・各小学校へ入学した市内の小学1年生児童を対象(植樹1本/1クラス)・樹種：オオヤマザクラ・本数：9～10本/年</li> <li>○桜維持管理業務(※国営公園を除く植樹箇所)</li> <li>・草刈り、施肥、灌水、害虫駆除、生育調査他</li> </ul>					

## 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費(決算額)		1,008,888 円		1,127,636 円		1,226,023 円	
	財源内訳	特定財源	円		円		円	
一般財源		1,008,888 円		1,127,636 円		1,226,023 円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度(R1)	達成率	次年度(R2)
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①	記念植樹会の開催数	1	1	1	1	100.0%	
	②	おたんじょ桜管理業務施設数	7	7	7	7	100.0%	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度(R1)	達成率	次年度(R2)
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①	植樹本数(累積本数)	357	367	376	377	99.7%	383
	②							
	③							
2. 数値で表せない効果								
(指標①) 児童の健全育成と健康で文化的な都市環境の整備により、シビックプライドの醸成による定住やまちづくり活動に寄与する。								

## 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	評価	高い	高い	高い	一部重複	高い	改善の余地あり					18
点数	3	3	3	2	3	2						
評価理由	<p>さくらの里づくりを進めて20年が経過し、順調に整備がされてきている。今後も継続し、桜の名所の形成を図り都市緑化の整備を進める。しかしながら、これまで、植樹した桜の現状があまり認知されていないこともあり、植樹した子供たちが成人となった節目に告知等を行い、まちづくり活動の醸成にもつなげたい。</p>											

## 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について(目的に対する現状など)</b>
<p>これまで、市内の都市公園や市道沿線等における公共用地に植樹を行ってきたが、今後、記念植樹に相応しい場所の選定が課題となる。また、少子化により新入生クラスが減少し、植栽本数も減少傾向にある。</p>
<b>改善の方法等(上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容)</b>
<p>児童の健全育成や郷土愛を育み、新たな桜の名所の形成を図るとともに、既存の桜の名所等の保全に向けた事業の活用についても検討を進める。</p>



# 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	計画係	事務事業No.	18422	
事務事業名	街路整備事業					
計	一般会計	款	8	項	4	
				目	2	
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	84
	施策目標	暮らしやすい都市基盤の整備				
	施策項目	都市構造を支える幹線道路網の構築・整備促進				
個別計画	大田市都市計画マスタープラン				42	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）			
	主要幹線道路を補完して地域間の流動を担う、比較的交通量が多い道路である。		市民生活に必要な走行性、安全性を確保した道路整備を進める。			
主な業務内容	○（街）中央通り線（主）長野大町線）北大町工区 整備区間：大町文化会館入口交差点南～若一王子神社入口 事業規模：L＝約450m・W＝16m 全体事業費：C＝971,479千円（うち市負担金10%から15%） ○（街）館ノ内借馬線（主）大町明科線）松崎工区 整備区間：旭町交差点（旭橋）～社会就労センター南 事業規模：L＝約280m・歩道設置（片2.5m） 全体事業費：C＝200,000千円（うち市負担金10%から15%）					

## 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		10,304,958 円		19,412,197 円		22,045,627 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		10,304,958 円		19,412,197 円		22,045,627 円			
活動指標	指標名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
			実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	中央通り線 整備延長（事業費換算）	Km	0.19	0.28	0.37	0.37	100.0%	0.42
	②	館ノ内借馬線 整備延長（事業費換算）	Km	-	-	0.01			0.05
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
			実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	中央通り線 整備率（事業費換算）	%	41	60	82	83	98.8%	92
	②	館ノ内借馬線 整備率（事業費換算）	%	-	-	4			9
	③								
	2. 数値で表せない効果		（指標①）中央通り線：都市間の幹線道路機能の充実が図られる。 館ノ内借馬線：歩道設置による安心・安全の確保が図られる。						

## 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
	点数	3	3	3	3	2	3		17	
	評価理由	無電柱化への期待もあったが、整備が困難という結論に至り、整備方針が明確となったことから事業費の縮減と早期に整備が進むと考えられる。								

## 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
事業主体の長野県や電力・通信事業者との協議により、無電柱化が困難となり整備計画も具現化された。順調に進めば、R4年度完了見込みである。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
残りわずかとなった用地補償が円滑に進み、早期に完成出来るよう市としても積極的な協力を行う。

## 事務事業評価調査

担当課	建設水道部	建設課	計画係	事務事業No.	18439	
事務事業名	全国都市緑化フェア推進事業					
会計	一般会計	款	8	項	4	
		目	3			
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	84
	施策目標	暮らしやすい都市基盤の整備				
	施策項目	中心市街地の活性化				
個別計画	全国都市緑化フェア開催要綱及び第36回全国都市緑化信州フェア実施計画					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	都市緑化意識の高揚と、持続力ある都市緑化活動の推進と共に緑豊かな信州の魅力を全国にアピールするため、公民学の連携と協働により、都市緑化の推進を図る。			緑の大切さを意識し、緑を守り、増やし、育てるための知識を得る場とし、活動の継続性を保ちながら、都市緑化を推進し、中心市街地の回遊の仕掛けづくりと賑わい創出につなげ交流人口の拡大を図る。		
主な業務内容	開催期間：平成31年4月25日～令和元年6月16日（53日間） 会場：県松本平広域公園、国営アルプスあづみの公園、県烏川渓谷緑地及び、各市内サテライト会場 主催：長野県、松本市、大田市、塩尻市、安曇野市、都市緑化機構 信濃大町サテライト会場：信濃大町駅前、中心市街地周辺エリア、ラ・カスタ ナチュラルヒーリングガーデン、大町温泉郷 主な内容：市街地周辺のポケットパークなどの花壇整備、ワークショップの開催、小中学生が植栽したフラワーコンテナの設置、関連イベントの開催など					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		4,718,161 円		19,993,798 円		40,911,728 円		
	財源内訳	特定財源	円		5,000,000 円		10,000,000 円		
一般財源		4,718,161 円		14,993,798 円		30,911,728 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	基本計画の策定	式	1.0					
	②	実施計画の策定	式		1.0				
③	信州フェア開催	式			1.0	1.0	100.0%		
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	来場者数（メイン・サブ）	万人		70.5	50	141.0%		
	②	国営公園（大町・松川）	万人		5.7				
	③	信濃大町サテライト会場	万人		2.2				
2. 数値で表せない効果		（指標①）・信州花フェスタ来坊による、花や緑への関心の変化（公式記録に掲載） ・緑化活動にさらに参加したい、取り組みたいという市民団体のシビックプライドの醸成。							

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	高い	重複なし	高い			
	点数	3	3	3	3	3	3		事業完了終了	18
評価理由	緑化フェアを契機に、来坊者をおもてなす市街地の緑地整備や回遊の仕組みづくりにより、緑化活動に取組みたいという市民団体のシビックプライドの醸成が図られ、まちづくりに繋げていく仕組みが出来た。									

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b> 市街地の緑地整備や、緑地を管理する市民団体の継続的な活動をさらに推進し、団体主体の活動支援を展開し推進していく。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b> 市民団体が継続的に都市緑化への関心を持ち、展開する活動を支援するために、まちなかの緑地整備事業を事業化し緑化マイスターの育成などに取り組んでいく。

## 事務事業評価調査

担当課	建設水道部	建設課	農地整備係	事務事業No.	184310	
事務事業名	仁科三湖周辺整備事業					
会計	一般会計	款	8	項	4	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画掲載頁	83
	施策目標	暮らしやすい都市基盤の整備				
	施策項目	魅力あるまちの形成に向けた都市計画の推進				
個別計画	仁科三湖整備計画				頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	○地域要望並びに、仁科三湖整備計画に基づく市道の拡幅改良工事。			○木崎湖の眺望を望む農地内の市道拡幅により、営農や地域交通の利便性の向上と伴に、観光的利活用の推進を図る。		
主な業務内容	<繰越事業> ○用地購入（市道東西海ノ口下線 10筆、地権者7名、事業費549,720円） <当年事業> ○道路改良工事（L=90m、W=3.0m、事業費9,537,000円） ○用地測量業務（2件 事業費1,408,000円）					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）			6,123,600	円	0	円	11,494,720	円
財源内訳	特定財源		10,000	円	0	円	9,000,000	円	
	一般財源		6,113,600	円	0	円	2,494,720	円	
活動指標	指標名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
			実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	木崎湖周遊道路の整備	m（%）	—	—	90（18）	100（20）	90.0%	100（38）
	②	休憩スポットの整備	箇所	—	—	—	—	—	—
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
			実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	木崎湖周遊道路の整備（L=505m）	m（%）	0（0）	0（0）	90（18）	100（20）	90.0%	100（38）
	②	休憩スポットの整備	箇所	—	—	—	—	—	—
2. 数値で表せない効果（指標①）									

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計	
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続
		評価	高い	高い	高い	重複なし	高い				
点数	3	3	3	3	3	2	17				
評価理由		○東西海ノ口を結ぶ市道であり、地域の要望も高いと伴に、耕作放棄地も増えていることから、本事業により地域間の利便性を図り、問題の解決をしていく。									

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
木崎湖周遊道路の整備については、自然と親しむ様々な観光的利活用が期待される一方で、周辺農地や河川区域に位置する部分においては、従来より、訪れる観光客と農業に従事する地域住民間で、持ち込まれるゴミや路上駐車などの問題も発生をしていることから、ゴミ問題に関しては河川管理者と連携し対策を進める必要があり、また、計画道路に待避所的なスペースを設け、休憩スポット整備も行うことから、地域住民とのルールづくりが必要である。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
道路改良後の周辺の整備や観光的活用方法については、地域住民や観光に携わる関係部署並びに関係者などと相談をしながら検討をする。

# 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	建築住宅係	事務事業No.	18443		
事務事業名	住宅・建築物耐震化推進事業						
会計	一般会計	款	8	項	4		
		目	4				
総合計画	まちづくりのテーマ	第3節 だれもが健康で安心して暮らせるまち			前期計画登載頁	77	頁
	施策目標	市民生活の安全の確保					
	施策項目	災害に強いまちづくりの推進					
個別計画	大門市耐震改修促進計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和56年以前に建設された住宅・建築物の耐震診断</li> <li>所有者が行う耐震改修工事に要する費用に対し、補助金を交付する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震化により、市民の生命及び財産を守る。</li> <li>耐震化により、震災による被害を最小限にする。</li> </ul>			
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅耐震診断 昭和56年以前に建設した木造在来工法の住宅の耐震診断 所有者負担なし 診断件数 18件</li> <li>住宅耐震改修 診断の結果、耐震改修が必要と判断された住宅の耐震補強工事等への補助 改修3件 建替4件</li> </ul>						

## 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		2,880,000 円		6,100,000 円		8,155,000 円	
	財源内訳	特定財源	1,925,000 円		4,575,000 円		6,115,750 円	
一般財源		955,000 円		1,525,000 円		2,039,250 円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 広報掲載	回	1	1	1	1	100.0%	1
	② 制度周知回覧チラシ	枚		1,200	1,200	1,200	100.0%	1,200
③ 制度案内通知	件		10,000	10,000	10,000	100.0%	10,000	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 住宅耐震診断	件	9	20	18	30	60.0%	30
	② 住宅耐震改修	件	2	5	7	5	140.0%	10
	③ 避難施設耐震診断	件	6	—	—	—	—	—
2. 数値で表せない効果（指標①）								

## 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	評価	高い	低い	高い	重複なし	高い	適正である					
点数	3	1	3	3	3	3						
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震災害に対して市民の生命及び財産を守るとともに、震災による被害を最小限にとどめることを事業の目的としていることから、事業の必要性は高いが、市民ニーズは低調である。</li> <li>災害に強いまちづくりの推進に有効な事業である。</li> <li>事業費の4分の3の特定財源（2分の1は国庫補助金、4分の1は県補助金）があり、事業の効率性は高い。</li> </ul>											

## 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅の耐震改修については、多額の工事費を要することから伸び悩んでいる。</li> <li>耐震診断を希望する避難施設（地縁団体等が所有する集会所）については、平成29年度までに診断を完了したが、診断した施設すべてにおいて、一定の耐震性を満たしていないことから、避難施設所有者の意向を確認しながら、耐震改修を促進する。</li> </ul>
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震化を促進する取組を規定した「住宅耐震化緊急促進アクションプログラム2020」を策定し、耐震改修等に係る支援目標を設定するとともに、実施・達成状況を把握・検証・公表し対策を進める。</li> <li>耐震診断受診件数を増やす取組 ①広報誌での事業案内及び耐震改修促進事業を紹介するパンフレットを固定資産税の納税通知書に同封し送付 ②戸別訪問により受診を促す取組</li> <li>耐震改修に結び付ける取組 ①耐震診断結果報告時にリーフレットの配布・説明等により耐震改修を促進 ②耐震診断後一定期間経過しても耐震改修を行っていない者に対して戸別訪問等により耐震改修促進</li> </ul>

## 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	建築住宅係	事務事業No.	18446			
事務事業名	住宅性能向上リフォーム支援事業							
会計	一般会計		款	8	項	4	目	4
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	89	頁	
	施策目標	快適な生活環境の形成						
	施策項目	住宅環境の向上						
個別計画								頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	市民が施工業者に依頼して行う住宅リフォーム工事に要する費用に対し、補助金を交付する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅の性能向上を図るリフォーム工事を支援することで、良質な住宅ストックの形成、定住促進を図る。</li> <li>・住宅の性能向上を図るリフォーム工事を支援することで、市内経済の活性化に寄与する。</li> </ul>				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交付状況（補助率：20%、限度額：200千円、性能向上の種類：省エネルギー型、防災型、環境負荷低減型）</li> <li>リフォーム件数：172件</li> <li>補助金交付額：29,342千円</li> </ul>							

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		29,005,000 円		29,511,000 円		29,342,000 円	
	財源内訳	特定財源	円		円		円	
			一般財源	29,005,000 円		29,511,000 円		29,342,000 円

  

活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	住宅リフォーム	件	168	173	172	175	98.3%	
②	補助金交付額	千円	29,005	29,511	29,342	30,000	97.8%	
③								

  

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	経済波及効果(対象工事費)	千円	203,453	214,205	233,593	210,000	111.2%
②	経済波及効果(対補助額割合)	倍	7.01	7.26	7.96	7.00	113.7%	
③								

  

2. 数値で表せない効果（指標①）	
-------------------	--

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	普通	普通	高い	重複なし	普通			
点数	2	2	3	3	2	3		18		

  

評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の交付により、住宅リフォームが促進され、良質な住宅ストックの形成、定住促進が図れるとともに、市内経済の活性化に相当の波及効果がある。</li> <li>・環境改善等行政が取り組むべき課題、政策の推進が図れる。</li> <li>・平成27年度から30年度は8月末までに予算額に達し受付終了していたが、令和元年度については予算額に達せず、通年で申請を受け付けたことから、市民ニーズは減少している。</li> <li>・事業費全額が一般財源である。</li> </ul>
------	--

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業は補助金交付要綱で平成29年度までの時限事業としていたが、令和元年度まで延長し5年間実施した。</li> <li>・令和元年度の申請状況をみると、リフォーム需要は減少している。</li> <li>・当事業における類型別の施行状況をみると、防災型が極端に少ない件数となっている。</li> <li>・個人資産の価値が向上する側面のある事業であること、財源がすべて一般財源であること。</li> </ul>
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年多発する自然災害の防災、減災の観点、周辺住環境を改善する観点から、住宅リフォーム工事に合わせて行う防災減災型外構工事を補助対象経費に加え、「安心・安全住宅リフォーム支援事業」として事業展開する。</li> <li>・個人資産の価値が向上する側面のある事業であること、財源がすべて一般財源であることから恒久施策とせず、事業期間を3年間とする。</li> <li>・令和元年度の申請状況は従前に比べて低調であり、リフォーム需要は減少していると思慮できることから、事業費は25,000千円とする。</li> </ul>

## 事務事業評価調書

担当課	建設水道部	建設課	建築住宅係	事務事業No.	18512	
事務事業名	住宅管理費					
計	一般会計	款	8	項	5	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	89
	施策目標	快適な生活環境の形成				
	施策項目	住宅環境の向上				
個別計画	大町市営住宅等整備計画				頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市営住宅 住宅に困窮する低所得者に低廉な家賃で賃貸する。</li> <li>雇用促進住宅 勤労者に住宅を賃貸する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の安定と社会福祉の増進に寄与する。</li> <li>勤労者の生活及び就業の安定を図る。</li> <li>適切な維持管理を行う。</li> <li>市営住宅等整備計画に基づく住宅の整理統合、施設改修等を計画的に実施する。</li> </ul>		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>地積測量図作成業務（明野団地 大町市八坂883番地他4筆）</li> <li>市営住宅不動産鑑定評価業務（譲渡価格の設定 西平団地2戸 中村団地2戸）</li> <li>市営住宅不動産鑑定評価意見書作成業務（譲渡価格の時点修正 本村団地4戸）</li> <li>市営住宅向山団地機械設備改修工事（向山団地7棟10戸機械設備等改修 水洗化,ユニットバス,給湯設備の設置）</li> <li>市営住宅屋根塗装修繕工事（中村3戸、本村団地3戸の屋根塗装）</li> </ul>					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		24,849,161 円		68,301,897 円		82,036,059 円		
	財源内訳	特定財源	24,849,161 円		68,301,897 円		82,036,059 円		
一般財源									
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	リフォーム工事の施工	戸		10	10	10	100.0%	
	②	用途廃止、譲渡	戸						-5
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	市営住宅の水洗化率	%	48.43	50.52	52.62	52.62	100.0%	52.54
	②	市営住宅の管理戸数	戸	477	477	477	477	100.0%	472
	③								
	2. 数値で表せない効果		(指標①) リフォーム工事の施工により、住環境の向上、施設の長寿命化が図れた。						

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	普通	普通	高い	重複なし	普通	適正である			
	点数	2	2	3	3	2	3			
評価理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>地積測量図作成業務、不動産鑑定評価業務については、住宅譲渡に向けての事前手続きであり、目的達成のために必要な事業である。</li> <li>リフォーム工事の施工により、住環境の向上、施設の長寿命化が図れ有効性の高い事業である。</li> <li>公営住宅ストック総合改善事業においては、対象工事費の2分の1相当額の交付金が見込まれ、事業の効率性は高い。</li> </ul>								

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>市営住宅等整備計画において、大原2号団地（90戸）、借馬団地（109戸）等を用途廃止とし、近接する市営及び県営住宅への移転の斡旋を進めているが、入居者の状況や生活環境などにも配慮する中で、当初の計画年度を超えた一定の時間を要している。</li> <li>市営住宅等整備計画において、中心市街地への新設団地（1団地50戸程度）を計画しており、建設候補地の抽出をしているが、用地選定、決定に至っていない。</li> </ul>	
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者との面談を行い、移転先について調整し、用途廃止計画の推進を図る。</li> <li>新設団地の用地選定について、庁内に検討組織を設置し、令和2年度中を目途に候補地を選定し、具体的な整備計画の策定を行う。</li> <li>市営住宅等整備計画を策定し5年を経過したことから、事業内容、事業スケジュールの点検・見直しを行う。</li> </ul>	